

2017年度第1四半期決算説明会 質疑応答

【開催日】 2017年8月2日（水）16:45～17:45

【出席者】

CFO : 増 一 行
主計部長 : 蜂谷 由文
IR部長 : 武久 裕

【質疑応答】

① 業績関連

Q. 第1四半期決算をどう総評するか。

- A. ● 一過性損失を計上したエネルギー事業グループを除く、全グループで進捗率 25%を上回った。総じて堅調な決算と評価している。
- 生産性向上やコスト削減、安定操業の経営努力に加え、資源価格回復の追い風もあり、順調な滑り出しとなった。

Q. 一過性要因を除けば事業系の純利益は 200 億円の増益となっている。何が要因か。

- A. ● 鮭鱒養殖事業の他、食肉事業、国内鶏肉事業、国内不動産事業等が増益となった。

Q. エネルギー事業グループの収益がマイナス（▲28 億円）になった理由は。どう評価するのか。

- A. ● 主に、資源関連の資産入替に伴う損失によるもの。
- 北米探鉱開発資産で 180 億円、石油事業関連で 50 億円の一過性損失を計上した。
- 同グループの一過性要因や配当収入のタイミングの影響もあり、第 1 四半期は赤字となっているが、通常のビジネスは堅調に推移。
- 一過性損失の一部は業績見通しで織り込んでいたこと、また、今後、LNG 事業の配当収入も期待できることから、現時点で通期見通し 500 億円は変更しない。

Q. 2017 年度業績見通しには、追加の一過性損益を織り込んでいるのか。

- A. ● 中期経営計画で掲げている資産入替えによるポートフォリオ改革を着実に進めている。第 2 四半期以降も現在想定される一過性損益は全て織り込んでいる。

② 投資関連

Q. 投融資レバレッジが 35%に到達しているが、資本配分方針に変更はあるのか。

- A. ● 2017 年度第 1 四半期は 35%になったが、今後見込んでいる投資が出れば 35%超に戻る見込みであり、資本配分方針に変更はない。

Q. 第 1 四半期における新規投資の具体的な中身は。また、第 2 四半期以降に見込んでいる新規投資等、今後の投資に対する考え方は。

- A. ● 第 1 四半期に出ている新規投資の大部分は、CVS 事業や豪州石炭事業等の通常の設備投資の積み上がりとなっている。先の見通しについては現在精査中の案件は多いものの、投資時期については慎重に見極めている状況。

③ 個別事業関連

Q. 17年度の原料炭価格はどの程度で見込んでいるか。

- A. ● サイクロンにより短期的に高騰した価格はサイクロン前の水準迄一旦下落、現在豪州の一部炭鉱における供給制約等により一時的に上昇しているが、今後、主要供給国の生産が回復し、市況は再び弱含みで推移する見通し。

Q. サイクロンによる BMA への影響は。

- A. ● サイクロン Debbie の影響で BMA が使用している Aurizon 社の鉄道輸送網に被害が生じたことにより、BMA の操業・出荷にも影響が出たが、現在は概ね回復しつつある。引続き顧客への安定供給に向けて取り組む。
- 今年 3 月末のサイクロンに関しては、これまで講じてきた対策が功を奏し炭鉱への被害は限定的であった。一部コストへの影響が出ている。
- 代替輸送等の自助努力による追加施策に加え、これまで推進してきた各種生産性向上施策の継続により、影響を最小限に留めるべく取り組み中。

Q. メタルワンの 17 年度第 1 四半期実績及び業績見通しは。

- A. ● 同社の業績についてのコメントは差し控えるが、当社最大のグループ会社の 1 社として、従前通りメタルワンを支援していく。

Q. 化学品グループの増益要因「石化関連事業の市況改善に伴う持分利益増加」とは。

- A. ● サウディ石油化学の当社持分利益の増加によるもので、主にエチレンジグリコールの 2017 年 1 月～3 月市況回復の影響。

Q. セルマックの 17 年度第 1 四半期実績は。また、現在の販売数量は。

- A. ● 17 年度第 1 四半期純利益は 39 億円で、前年同期比+27 億円（市況回復、生産コスト削減、販売強化等によるもの）。

以 上